

蕺荷利用

絶間にありて賞翫なり、めうがは專樹木の下などに種たるがよし、若さやうの地なくば、つねの島にうへ、其わきにかきをゆひ、上に棚をかまへ、薯蕷、葡萄、其他何にても、蔓のはひまとひて、上をおほふ物の類を側にうゆれば、みやうがさかへ、兩様の利あり、  
〔宜禁本草五乾〕蕺荷、微温、中蠱者服其汁臥、其葉、即呼蠱、主姓名、主中蠱及瘡、食赤者爲勝、藥用白者、多食損藥勢、又不利脚、人家種、白蕺荷、辟蛇、其性好陰、在木下生者尤美、其根堪爲菹、  
〔延喜式三十三大膳〕正月最勝王經齋會供養料、○註 僧別日菓菜料、○中 蕺荷漬、菁根漬各二合、

〔仁王經齋會供養料〕

僧一口別菓菜料、○中 蕺荷二合、漬菜料

〔延喜式三十九內膳〕漬年料雜菜

蕺荷六斗、料鹽六升、汁槽二斗、四升、○中略 右漬秋菜料

〔重修本草綱目啓蒙十〕蕺荷、○中

增蕺荷ノ莖ヲ取り、水ニ浸シ又雨ニ晒セバ、外皮爛レテ筋ノミ殘ル、コレヲ芋ニ代テ用ユ、ソノ形相似タレドモ、至テヨハシ、五月節句ノ人形ノ飾ニ多クコレヲ用ユ、縫物ニハ用ユルニ堪ヘズ、

蕺荷產地

〔續江戸砂子〕江府名産、井近在近國

早稻田茗荷、牛込の内高田の近所、他所にすぐれて大く美味也、江府のめうが多く、此邊より出る、

〔新撰字鏡〕草、干蕺、久禮乃波自加彌

〔本草和名八〕乾蕺一名定姜、出養性要集 生姜一名地辛、一名揚樸、一名藏、音織 一名辨、音首辨、已上二 和名久禮

乃波之加美、

〔倭名類聚抄十七〕蕺、圓菜 兼名苑云、蕺、居良反 一名藏、音織、和名久禮

蕺名